

まだまだ活発に活動したい方、
ぜひ一度ご相談ください



担当医 山崎 謙 院長

変形性膝関節症が進行し、痛みで歩くのがつらくなり活動量が低下してしまうと、心身の老化を進めてしまいます。痛みを和らげて歩ける足を維持するのは、健康新命の延伸のためにも重要です。

変形性膝関節症の治療は、これまで保存療法と手術療法だけでしたが、2018年に登場したAPS療法はその間をつなぐものとして患者さんの新たな治療選択肢となっています。

まだ新しい治療法のため、過度な期待は控えるべきですが、痛みのために生活に制限が増えてきた人であれば、一度試してみてもよい治療法だと思います。

ご興味のある方は、お気軽に主治医にご相談ください。



ご予約はお電話または整形外科受付まで

APS療法外来 (予約制)

診療日 月曜日・水曜日 8:45~11:45

担当医 山崎院長

ご予約窓口
整形外科外来 **045-825-2111 (代)**

変形性膝関節症 の第3の治療法

APS療法 当院で
受けられます



膝の痛みの緩和で健やかな毎日を

65才以上の6割近くといわれる国民病

変形性膝関節症とは、膝の関節にある軟骨が加齢とともにすり減り、骨が変形してしまう病気です。痛みが強くなると歩くことを控え、筋力が落ちて寝たきりになることもあるので、早期の治療が重要です。

変形性膝関節症 手術をしない 第3の治療法 APS療法

症状が軽い人：保存療法

リハビリテーション、痛み止め、ヒアルロン酸注射

薬で痛みを抑えながら、リハビリテーション、ストレッチ、筋力トレーニングなど運動療法で筋力を鍛え、膝の安定化を図ります。



メリット

- ・入院不要、手軽にできる
- ・適切な運動療法や減量により効果が期待できる

デメリット

- ・痛みが改善せず、効果が低い人もいる
- ・長期的な通院が必要

自分の血液を用いて膝関節の炎症を抑えるAPS療法

保存療法で改善せず、手術に踏み切れない方の新たな選択肢



APS療法は、血液に含まれる自己修復成分を利用した、簡単な処置で痛みの軽減が期待できる安全性が高い再生医療です。

当院でAPS療法を受けた約8割の方が痛みが緩和されたと回答しています。

メリット

- ・入院不要で、採血当日に治療が完了し、歩いて帰宅できる
- ・自己由来の成分のため、副作用や身体への負担が少なく、ご高齢でも治療が受けられる
- ・1回の治療で概ね3年ほど緩和効果が持続すると言われている

デメリット

- ・保険適用外のため自費診療
- ・効果の出方には個人差がある
- ・膝の変形自体を治す効果はない

症状が重い人：手術療法

人工関節手術：関節の一部を交換する膝単顆置換術(UKA)、すべて交換する全人工膝関節置換術(TKA)

傷んで変形した軟骨と骨を切除し、人工の関節に置き換えます。痛みをとる効果が高く、安定した手術です。



メリット

- ・確実な治療法
- ・効果が20年ほどと長い
- ・生活の質が向上する

デメリット

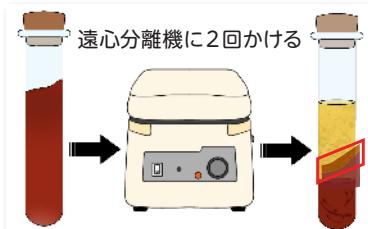
- ・入院、リハビリが必要
- ・手術・入院による体力の低下や合併症のリスクがある

APS療法の治療はとっても簡単!!

ご自身の血液から組織の修復や炎症を抑える有効成分APSを高濃度に抽出し、膝関節に注入するだけ

①採血

患者さまの血液
約55mlを採取▶

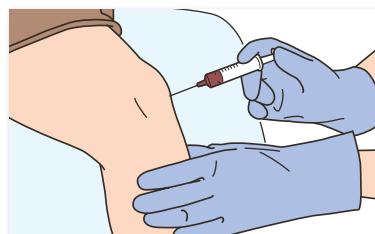


②APSを抽出

◀血小板に含まれる「PRP」から
抗炎症物質と成長因子が
濃縮された「APS」を抽出

患者様の膝関節に
APSを注入▶

③APSを注入



採血から注入まで約1時間で終了します!

APS療法を検討されている方へ

APS療法は厚生労働省の許可を受けた施設のみで行える再生医療です。当院は【APS療法】と【人工関節手術】の専門外来を併設しており、将来的に手術が必要になる場合に備えたアドバイスも可能です。

APS療法はまだ新しい治療法のため、保険適用外の自費診療となります。

治療費：1回約33万円（税込）

※施術前後の診察は保険診療となります。

治療ができる方

- ・変形性膝関節症と診断された方
- ・重篤な合併症や高度な貧血を有していない方
- ・血液疾患（血友病など）を有していない方
- ・この治療について十分な説明を受け、治療に理解が得られたうえで、本治療を受けることに同意いただいた方